

「忘れないこと、続けること」

ニューヨークで東北各県と北海道主催の3.11追悼式

東日本大震災から2年。3月10日、ニューヨーク、マンハッタンにある日系人会館では、今年で2回目となる「ほくほく会」主催の「3.11ほくほく会追悼式」が行われた。「ほくほく会」は、ニューヨークの東北6県の県人会と北海道ゆかりの会のネットワークで、今年も被災した岩手、宮城、福島各県の出身者を中心に、約80名が追悼式に参加した。



廣木重之在ニューヨーク総領事・大使あいさつに続き、各県人会代表がそれぞれの被災地の状況をレポート。岩手県出身の岩崎雄亮さんが目に見える復興の必要性を、宮城県の佐々木健二郎さんが復興格差ともいうべき状況が広がっている現状を報告し、福島県出身の藤田小夜子さんは、「『がんばろう福島』はもう卒業した。これからは『福島から始めよう』です」と締めくくった。



参加者全員で1分間の黙禱のあとはパネルディスカッション。各県から2名ずつパネラーが出て、復興の課題について話し合った。被災した故郷から遠く離れて何ができるのか、というのはすべての参加者の思い。ニューヨークで東北の物産はどこで何を買えるかという話から、各県の郷土料理、日本酒自慢にまで話が広がった。



ほくほく会は、「忘れないこと、続けること」を合い言葉に、今後も追悼式を続けて行くことにしている。



ニューヨーク「ほくほく会」

広報担当 / 手代木麻生

